

河辺地域 包括支援センター社協だより

令和5年度版

地域包括支援センターでは、皆さんがいつまでも健やかに住み慣れた地域で生活していけるよう介護、福祉、健康、医療など様々なご相談に対応しています。

※心配なことがありましたらなんでもご相談ください



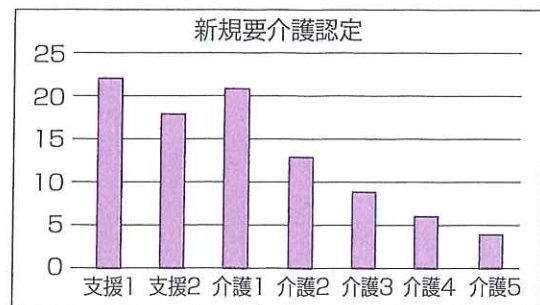
- 足腰が痛くて歩行が大変。介護サービスを利用したい。
- デイサービスやヘルパーを利用したいがどうしたらいいか。
- 一人暮らしだが高齢になり体調に不安もある。
なにかあった際に相談できるサービスはないか。
- 悪質な訪問販売の被害にあってしまったが誰にも相談できずにいる。

総合相談業務

R4年度は **新規 152件 累計 562件** の総合相談がありました。

内容としては…

- 介護保険に関すること(介護認定申請、デイサービス、ケアマネジャー、施設入所等)：313件
- 在宅サービスに関すること(雪よせ、配食サービス、緊急通報システム等)：87件
- 医療に関すること(体調確認、受診のすすめ等)：40件
- 認知症に関すること：72件
- その他(家族関係、生活困窮等)：50件



*新規の介護申請 93 件のうち支援 1～介護 1 の軽度な認定の方が全体の 65%を占めていました。

介護予防ケアマネジメント業務

～できる限り在宅で自立した日常生活を継続できるよう支援します～



要支援と認定された介護予防サービスを利用する方へ定期的に自宅訪問し、体調や介護サービス利用に関する相談をお受けしています。

一人で買い物に出かけたい、また料理を作れるようになりたい…など、みなさんが生活の中で実現したいことを目標に、できる限り在宅で自立した生活を継続できるよう支援します。今できることはそのまま維持し、できないことも少しずつできるよう一緒に検討していきます。

地域ケア会議

多職種協働による個別事例の検討等を行い、地域のネットワーク構築、ケアマネジメント支援、地域課題の把握を行っています。



地域課題ケア会議

和田地区の高齢者から「買い物や通院に歩いて行くには遠くて困っている」と相談がありました。

他の地域での買い物支援の参考例を、秋田市長寿福祉課、市社協地域福祉課からご紹介いただき、地域でできる支援について検討しました。

岩見三内地区では、地域のアンケート結果をもとに、高齢者への雪よせ支援の在り方について座談会形式でケア会議を開催しました。

ネットワーク会議

89歳の女性 転倒骨折後 要介護1

「これからも家族の食事作りを続けたい」という希望を叶えるために、医師・歯科医師・薬剤師・理学療法士（リハビリ）・ケアマネジャー・福祉用具相談員・包括職員がオンライン上で会議を開催しました。

疾患、身体状況、自宅の状況、今できていることを確認し、今後予想される危険、自立のために必要な支援など専門的な知見からアドバイスをいただき、意見交換を行いました。

(右の写真はパソコン上の画面です)



少子高齢化の今、行政や医療・介護保険制度だけでなく、仲間とのつながりを持ち「お互いさま」で助け合うことが重要です。社会参加や生活支援に参加することで介護予防にもつながります。

『はつらつ』『くよくよしない』『わくわく』『なるようになるさ』人生100年!

R4年9月～12月 「アタマとカラダの健康教室」開催

R4年9月8日から河辺総合福祉交流センター三世代交流ホールにて開催しました。全10回で参加者10名。毎回、笑いが絶えず、楽しい集いになりました。

今年度も9月から河辺総合福祉交流センターにて実施予定です。参加希望者は河辺地域包括支援センターまでご連絡ください。



終了後アンケートより

足が速くなった感じがする／楽しくできてよかった／今の自分がよく理解できた／体重が安定し以前より疲れが少し感じなくなった／半日だったが楽しく過ごせた／外出するのに苦にならなくなった／初日の計測で思っていたより認知症度が高かったので早速本を購入した



R4年10月15日 河辺まるごと祭り「お元気カフェ」開催

R4年10月15日・16日に「河辺まるごと祭り」が3年ぶりに開催されました。河辺包括では、初日に「お元気カフェ」を開催し、血圧測定、健康相談、姿勢チェック、脳年齢チェックなどを行いました。姿勢チェックでは今回初披露の「TANO」というシステムを使い、姿勢のゆがみを測定。その後、測定結果に合わせ、姿勢改善の動作が入った薪割りゲームや窓拭きゲームなどを数分間行いました。老若男女問わずとても盛り上がりました。今年のまるごと祭りも参加する予定ですので、お時間がある方はぜひお立ち寄りください。



看護師による健康相談



「TANO」で薪割りゲームをやっている様子。両手を組み上から下に手を振りおろし薪を割ります。4歳の子供でも楽しみました。



脳年齢チェック

いつまでも 住み慣れた地域で暮らす

2年前に夫を亡くされ、一人暮らしのA子さん（79歳）。「歩かないと歩けなくなってしまう」と元気一杯なご本人から、「この頃物忘れする」と相談がありました。暗証番号を間違えてロックがかかりお金が下せなくなった、ゴミの日の曜日や時間に出せなくなった、とのことでした。そこで、県外在住の息子さんに、今後のことについて相談しました。息子さんから生活費を送金してもらい、郵便局で引き出し、スーパーへ買い物に行くことができるように整備しました。郵便局員とも顔なじみになりました。また、要介護1の認定を受けて、ヘルパーさんと最近の出来事や体調等会話をしながら、一緒にゴミの分別を行っています。それから、民生委員や隣人の方を交えてどう支えていくか、ケア会議を行い、見守りや声掛けから始まり、冬期間は隣人の方が自宅前の雪よせの手伝いをしてくれました。山やわらび採りが大好きなA子さん、いつか行きたいと心待ちにしています。できることは一人で、できないことは周囲の方からサポートを受けて、住み慣れた地域でいつまでも暮らしたいと思っているA子さんなのでした。



(わらび採りの掲載写真と記事は関係ありません)

☆☆河辺地域包括支援センター職員を紹介します☆☆



河辺地域に暮らす高齢者のみなさまを、介護、福祉、健康、医療などさまざまな面から総合的に支援いたします。

どうぞお気軽にご相談ください。

(左後ろから) 鈴木社会福祉士・兵藤主任介護支援専門員
(右前から) 藤川保健師・小松認知症地域支援推進員・
山上生活支援コーディネーター
5名体制で頑張ります！

お問い合わせ先



社会福祉法人秋田市社会福祉協議会

河辺地域包括支援センター社協

〒019-2625 秋田市河辺北野田高屋字上前田表66-1 河辺総合福祉交流センター内

TEL 018-882-5565 秋田市社協HP <http://www.akita-city-shakyo.jp/>